

第十回 忠順大賞

(平成二十七年)

年度)

入賞作品

・応募総数 一七三二首
・荒川心星先生 選評

小学生の部

豊田市長賞

堤小六年 峯 妃南

深呼吸遠くの拍手聞こえる

手に汗光りけんばんたたく

※阿伝の演奏者と聴衆の息つまる一瞬間を捉えた一首。結句の思いは深い。

深い。

豊田市教育委員会賞

堤小六年 中野 紗也

父さんと雪山目指し突っ走る

こっちは小雨あつちは吹雪

※自然の動きを巧く捉えた一首。

「こっちは小雨あつちは吹雪」は素晴らしい表現。

会長賞 金賞

堤小六年 廣瀬 心音

友達と神社で年越し寒い空

大きいどんどちまち燃える

※年越しの空と五穀豊穰を祈る「どんど焼き」の情景が目に見え

くる。心に残る一首。

会長賞 銀賞

堤小五年 清水 亜胡

燃えさかる炎を囲み見上げれば

暗いやみ夜に星が輝く

※キャンプファイヤーを囲んだ交歓の様子が見え

すばらしい。

会長賞 銅賞

堤小四年 石川 心桜

原っぱで風になびくよたこふたつ

青空の下笑顔もふたつ

※凧上げの遊びが手に取るようである。結句の「笑顔もふたつ」がよいですね。

中日新聞社賞

駒場小六年 風間 優花

一目見てこれ良さそうと買った本

どんどんたまる読書の秋

※本好きの子は心豊かである。下の句が光っている。

優秀賞(四名)

堤小五年 堀越 未月

父さんとのこったのこったはじきと

ぶ

あったかい胸にまたちようせんだ

※力強いうた、心が躍るうた。

いいお父さんですね。

堤小三年 前田 真未

いつまでも感謝してるよ給食に

みんなの力もっているから

※下の句の「みんなの力もっているから」がとてもいいから心を打たれる。

堤小一年 広瀬由依菜

かあさんとなかよくつくるハンバー

グ

まるくこねこねわあおいしそう

※お母さんといつもいっしょ。

「まるくこねこね」がいいですね。

駒場小二年 古畑ヤマオ

しゆくだいがやつとおわってほつと

して

かおをあげたらごほんのにおい

※とてもいいうたです。

「^く苦は^{らく}楽の種^{たね}」がわかりますか。



豊田市長賞

前林中三年 藤井 祐希

おはようと地域の人と朝交わす

気持ちのいい日はあいさつからだ

※気持ちのこもった素直な一首。

下句の「気持ちのいい日はあいさ

つからだ」は前向きな宣言。

豊田市教育委員会賞

前林中一年 酒井 未来

文化祭皆で歌ったあの姿

どんな星より輝いてたね

※実感のあふれた一首。

下の句の表現がすばらしい。

会長賞 金賞

前林中三年 伊藤 茉央

ほほえみとありがとうのひとことで

つながる心ひろがる笑顔

※素直な歌で心にひびく一首。

そして誰もがそう思うのである。

会長賞 銀賞

前林中二年 佐藤 巧望

立志式感謝の気持ちつたえたい

あらたな自分にあうために

※立志式への感謝の一首。

下の句の思いは深い。

会長賞 銅賞

前林中三年 山内 保津妃

目標へともに走った仲間たち

流したものは努力のあかし

※共感を呼ぶ一首。真情が滲んでい

る。

中日新聞社賞

前林中三年 戸田 静香

油絵のにおいと共に思いだす

友とすごしたあの部活動

※部活動の思い出はなつかしい。

上の句にその気持ちが表現されて

いる。

優秀賞（四名）

高岡町 早川 寛子

忠順邸の目鼻の先で育ちし吾

偉大さ認識らさる年経るごとに

※素直な実感に共感を覚える。

高町 久保 充恵

国学や短歌に典医と才長けし

郷土の「忠順」知りて憧る

※「忠順」の偉業をよく勉強された

方ですね。

前林中二年 渡辺 美咲

変わりゆく季節によって気持ち変え

明日へ明日へと踏み出す一歩

※希望に燃え決意を固めた一首。

前林中一年 鈴木 愛佳

夕ご飯家族だんらんランランラン

笑顔はずむし心もはずむ

※愛情に満ちた家族の楽しい一首。

季節や人間関係などを三十一文字のなかで、深く広がりのある表現ができるということを改めて感じております。

応募して下さった大勢の方々、授業、行事等で大変お忙しい中、毎年指導、協力して頂いています小、中学校の先生方に感謝いたします。

事務局 川村

* * * * *

第十回目となります「忠順大賞」に総数一七三二首の作品を応募頂き大変嬉しく思っています。

二月三日事務局での第一次審査を経て、俳人協会会員の荒川心星先生による最終審査により二十名の方が入選されました。おめでとうございます。また先生には講評も添えていただきました。

日々の生活での小さな出来事を、キラッと光る言葉で、自分の気持ちを素直に詠んだ歌に共感したり、驚いたり、感激したりと今年も多くの作品に出会うことができました。